



九頭竜川下流

# 十郷用水

十郷用水は、越前平野で最大の水路であり、九頭竜川の鳴鹿堰堤で取水され、九頭竜川右岸に展開しています。

十郷用水は、坂井平野の水田地帯の 3,500ha の県内最大の穀倉地帯を支える重要な用水となっています。

十郷用水の歴史は古く、平安時代の寛弘8年1011年に神鹿の先導により、江を掘り水を通したと言われています。

九頭竜川に十郷大堰をつくり、当時で用水の延長は七里(約 28 km)にわたり、河口荘十郷(荘園、現在の坂井地区内)の水田約 600ha をかんがいでいました。



開削当初はわずか 10 の村からはじまり、江戸時代には 128 ヶ村と、実に十倍以上となり、新江、高椋、河合春近、磯部用水などが分流され、十萬石を生み出す大動脈となりました。

しかし、水の量は昔と変わらなかったため、渇水時になると堰の切り落としや農民同士の争いが起き、その解決のため、複雑で難しい用水管理を強いられました。

昭和 28 年から幹線用水路工事が行われ、安定した用水供給が可能となりました。